

第1部 総論

第1 私のプロフィール

- ①1949（昭和24）年 愛媛県松山市生まれ（団塊世代）、
- ②中・高一貫受験 男子校、③学生運動、④司法試験、⑤公害訴訟（10年）、
- ⑥都市再開発・まちづくり（22年間）、⑦都市法政策 出版・講義、
- ⑧映画評論、⑨旅行記（中国へ11回）

第2 私と映画

- 1. 小学時代（1955～61年）——『にあんちゃん』（59年）
- 2. 中学・高校時代（1961～67年）
 - ①3本立て55円（洋画+日活）、②学校推薦（『ベン・ハー』など）、
 - ③試写会時々
- 3. 大学時代（1967～71年）
 - ①時々、名画座系（3本立て150円?）
 - ②日活ロマンポルノ
- 4. 司法修習生——深夜映画+ビデオ数台（年末年始）
- 5. 超多忙時代—— //
- 6. 自社ビル移転、ホームページ開設（2000～08年）
 - ①映画評論執筆開始
 - ②今や年間300本『シネマ1～15』出版
 - ・『シネマルーム5』—中国映画66本
 - ・『シネマルーム8』—韓国映画22本
- 7. 私が映画が好きな理由・・・?
- 8. 映画検定——キネマ旬報社・キネマ旬報映画総合研究所主催
 - ・『「映画検定」公式テキストブック』
 - ・『「映画検定」公式問題集』
 - ・4級合格（06年7月）
 - ・3級合格（07年1月）

第3 私の1本・私のベスト5

- 1. 私の1本——『サウンド・オブ・ミュージック』（高3）
- 2. 私のベスト5

洋画

- ①『風と共に去りぬ』（39年）
- ②『ウエスト・サイド物語』（61年）
- ③『卒業』（67年）
- ④『太陽がいっぱい』（59年）
- ⑤『さらば、わが愛／霸王別姫』（93年）

邦画

- ①『砂の器』（74年）
- ②『幸福の黄色いハンカチ』（77年）

③『人間の条件』（59～61年）

④『蒲田行進曲』（82年）

⑤『誰も知らない』（04年）

第4 私の愛読書

1. 昔『スクリーン』『映画の友』

2. 今『週刊20世紀シネマ館』50冊+別巻10冊、『キネマ旬報』

3. 参考書：『中国映画の明星』『中国映画の明星—女優編』

（石子順・03年・平凡社）

4. 私の夢『坂和流シネマと法律』の出版

第5 坂和流ジャンル構成

1. なぜ映画が面白いのか？

①人間の本性に迫る、②人生の縮図、③知らないことを体験、④歴史や恋愛の勉強、⑤夢と希望、元気の素

2. なぜ映画評論を書くか

①書かないと忘れる、②書くことによって感動を記録、③他者との議論のネタ、④読者にも夢と希望と元気を与える

3. 何が好きか？

①人それぞれ、②必ず好きなジャンルあり

4. 映画評論の何が面白いのか？

①映画の話題は老若男女に共通

②人間の本音に早く迫れる。本性が早く見れる、

③異なる意見、見方、感性を知る

5. こだわりがわかる！

①私のこだわりは？②あなたのこだわりは？

③面白い人がたくさん・・・

第6 『SHOW-HEYシネマルーム』の映画評論の特徴（ユニーク性）

1. 弁護士視点

①法廷のあり方、②各種の法律上のテーマ、③その他（危機管理のシステム）

2. 都市法政策の講義、都市問題の実践からみる視点

①都市・住宅政策、②公害

3. 歴史大好き人間の視点

中国、韓国、ヨーロッパ中世

4. 文学大好き

シェイクスピア

5. 戦争映画検討の視点

6. 日本人論追及の視点（西欧や中国との対比）

7. 恋愛大好き、ピュアな少年の視点（？）

8. エロおやじの視点

9. 時事問題検討の視点

・シンドラ社のエレベーター事件と『死刑台のエレベーター』

第2部 各論

第1 映画と医療

1. 医療従事者必見の映画

・『白い巨塔』

・『ブラック・ジャック』

・『わるいやつら』(80年)

・『パッチ・アダムス』(98年)

2. 病院モノ・看護師モノ

・『ジョニーは戦場へ行った』(73年)

・『病院へ行こう』(90年)

・『病は気から 病院へ行こう2』(92年)

・『ナースコール』(93年)

・『シャーロット・グレイ』(01年)

・『ナースのお仕事 ザ・ムービー』(02年)

・『サヨナラCOLOR』(04年)

・演劇『W;t (ウィット)』

3. 安楽死

・『ミリオンダラー・ベイビー』(04年)

・『海を飛ぶ夢』(04年)

3. 医療保険制度

・『ジョンQ』(02年)

・『シッコ』(07年)

・NHK大河ドラマ『いのち』(86年) —三田佳子主演

4. 優生保護法—人工妊娠中絶

・『ヴェラ・ドレイク』(04年)

5. 心神喪失(鑑定)

・『39—刑法三十九条』(99年)

6. 親権者

・『アイ・アム・サム (I am Sam)』(01年)

・『2番目に幸せなこと』(00年)

7. 少年犯罪(精神鑑定)

・『深紅』(05年)

・『17歳の風景 少年は何を見たのか』(05年)

・『カミュなんて知らない』(05年)

8. 成年後見制度

・『そうかもしれない』(05年)

9. 認知症

・『私の頭の中の消しゴム』(04年)

・『博士の愛した数式』(06年)

・『明日の記憶』(06年)

10. クローン人間

・『スピーシーズ/種の起源』(3部作)(95年、98年、04年)

・『アダム—神の使い 悪魔の子—』(04年)

・『アイランド』(05年)

第2 映画から学ぶ歴史

1. 日本のあの戦争(ドキュメンタリー映画)

・『蟻の兵隊』(05年)

・『ディア・ピョンヤン』(05年)

- ・『男たちの大和／＼YAMATO』（05年）
- ・『硫黄島からの手紙』（06年）
- ・『ひめゆり』（06年）
- ・『ヒロシマナガサキ』（07年）
- ・『TOKKO-特攻-』（07年）

2. ヨーロッパの歴史と戦争

(1) ナチスドイツ

- ・『ヒトラー～最期の12日間～』（04年）
- ・『グッバイ、レーニン!』（03年）
- ・『善き人のためのソナタ』（06年）
- ・『ドレスデン、運命の日』（06年）
- ・『ヒトラーの贖札』（07年）

(2) スペイン人民戦線

- ・『誰が為に鐘は鳴る』（43年）
- ・『パンズ・ラビリンス』（06年）

(3) フランス革命

- ・『マリー・アントワネットの首飾り』（01年）
- ・『マリー・アントワネット』（06年）
- ・『エリザベス：ゴールデン・エイジ』（07年）

(4) ヨーロッパ開放戦争

- ・『史上最大の作戦』（62年）

3. 中国史

(1) 夢とロマンの始皇帝

- ・『始皇帝暗殺』（98年）
- ・『HERO（英雄）』（02年）
- ・『項羽と劉邦—その愛と興亡 完全版—』（94年）

(2) 三国志あれこれ

- ・『三国志〈国際スタンダード版〉』（96年）
- ・スーパー歌舞伎『新・三国志II—孔明篇』（01年）

(3) 唐の時代、そして宋、明、清へ

- ・『ヘブン・アンド・アース』（03年）
- ・『国姓爺合戦』（01年）

(4) 阿片戦争に学ぶ

- ・『阿片戦争』（59年）
- ・『阿片戦争（鴉片戦争）』（97年）

(5) 日中戦争を考える

- ・『宋家の三姉妹』（97年）
- ・『戦争と人間／3部作』（70・71・73年）
- ・劇団四季『異国の丘』（01年）（ミュージカル）

3. アメリカ

(1) 南北戦争

- ・『風と共に去りぬ』（39年）
- ・『コールド・マウンテン』（03年）

(2) ベトナム戦争

- ・『ワンス&フォーエバー』(02年)
- ・『地獄の黙示録』(79年)
- ・『プラトーン』(86年)
- ・『7月4日に生まれて』(89年)

(3) 太平洋戦争

- ・『父親たちの星条旗』(06年)

第3 中国映画から何を学ぶか

1. ヌーベルバーグ作品

- ・『黄色い大地』(84年) — 陳凱歌 (チェン・カイコー) 監督
- ・『紅いコーリャン』(87年) — 張藝謀 (チャン・イーモウ) 監督

2. 新生中国の歩み〜文化大革命批判

- ・『芙蓉鎮』(87年)
- ・『青い嵐』(93年)
- ・『さらば、わが愛／霸王別姫』(93年)
- ・『生きる』(94年)

3. 日本では失われた家族の絆

- ・『雲南の少女 ルオマの初恋』(02年)
- ・『幸せの絆』(03年)

4. 「しあわせ3部作」 — 張藝謀 (チャン・イーモウ) 監督

- ・『あの子を探して』(99年)
- ・『初恋のきた道』(00年)
- ・『至福のとき』(02年)

5. 企業のあり方

- ・『CEO (最高経営責任者)』(02年) — (ハイアール)

6. 『呉清源 極みの棋譜』(06年)

— 田壮壮 (ティエン・チュアンチュアン) 監督

第4 映画から学ぶ人生論・恋愛論・結婚論 (省略)

第5 映画から学ぶ家族論・父(母)親論 (省略)

第3部 映画と裁判—裁判員制度実施に向けて

— 一つ自分が選ばれるかわからない、今から心構えが必要

1. アメリカの陪審制度

- ・『十二人の怒れる男』(57年)
- ・『アラバマ物語』(62年)
- ・『ザ・ファーム 法律事務所』(93年)
- ・『ペリカン文書』(93年)
- ・『依頼人』(94年)
- ・『評決のとき』(96年)
- ・『相続人』(97年)
- ・『レインメーカー』(97年)
- ・『ニューオーリンズ・トライアル』(03年)

2. 日本の裁判員制度

- ・『12人の優しい日本人』(91年)

- ・『裁判員一決めるのはあなた』（03年）
- ・『それでもボクはやってない』（06年）
- ・『ゆるる』（06年）

第4部 医療と裁判—医療過誤

1. インフォームド・コンセント（説明義務）
2. 病院経営・労働条件
3. 看護師が知っておきたい重要判例

（1）医療水準

新規の治療法の存在を前提にして検査・診断・治療等に当たることが診療契約に基づき医療機関に要求される医療水準であるかどうかを決するについては、当該医療機関の性格、その所在する地域の医療環境の特性等の諸般の事情を考慮すべきであり、上記治療法に関する知見が当該医療機関と類似の特性を備えた医療機関に相当普及しており、当該医療機関において上記知見を有する事を期待する事が相当と認められる場合には、特段の事情がない限り、上記知見は当該医療機関にとっての医療水準であるというべき（最判平7・6・9）

（2）能書判決

医療品の添付書類（能書）に記載された使用上の注意事項と医師の注意義務—医師が医薬品を使用するに当たって医療品の添付書類（能書）に記載された使用上の注意事項に従わず、それによって医療事故が発生した場合には、これに従わなかったことにつき特段の合理的理由がない限り、当該医師の過失が推定される（最判平8・1・23）

（3）いわゆる期待権

医師の過失ある医療行為と患者の死亡との間の因果関係の存在は証明されないけれども、医療水準にかなった医療が行われていたならば患者がその死亡の時点においてなお生存していた相当程度の可能性の存在が証明される場合、生存の相当程度の可能性侵害についての損害を賠償しなければならない（最判平12・9・22）

4. 専門家の弱さ—建築士・会計士・弁護士・医者

（1）2005～2007年は偽装のオンパレード

（VS『国家の品格』（藤原正彦）

→耐震強度偽装問題、ホリエモン、公認会計士（港陽監査法人、中央青山監査法人）、村上ファンド、船場吉兆、石屋製菓（白い恋人）、不二家、赤福、比内鶏、マクドナルド

（2）『金融腐食列島・呪縛』『燃ゆるとき』『不撓不屈』から学ぶこと

第5部 映画にまつわる近時の話題

第1 「邦高洋低」、邦画の復活？邦画バブル？

1. 06年興行収入2025億円のうち邦画が1077億（53%）
2. 公開本数—邦画417本、洋画404本
3. 50億円超の邦画6本

『ゲド戦記』（76億円）

『LIMIT OF LOVE 海猿』（71億）

『THE 有頂天ホテル』（60億）

『日本沈没』（53億）

『DEATH NOTE the Last name』（52億）

『男たちの大和／＼YAMATO』（50億）

4. 07年（上半期）は10億円超の邦画—19本

しかし大ヒットなし、再逆転？

第2 邦画の人気はホンモノ？

1. 李相日監督の問題提起

①製作委員会方式→テレビとタイアップ（特にフジテレビ）

②大量宣伝とシネコン方式

③作家性の喪失—企画力低下、ケータイ小説頼り

2. 単館上映ながら上質な映画の健闘

『フラガール』（李相日監督）

『ゆれる』（西川美和監督）

『歓喜の歌』（松岡錠司監督）は？

第3 外国で活躍する日本人監督と日本人俳優

1. 昔—三船敏郎、石原裕次郎、黒澤明監督、小津安二郎監督

今—北野武監督

2. 渡辺謙、小雪—『ラスト・サムライ』（03年）

3. 役所広司—『バベル』（06年）、『シルク』（08年）

4. 菊地凛子—『バベル』（06年）

5. 真田広之—『PROMISE』（05年）

『サンシャイン 2057』（07年）

6. 中井貴一—『ヘブン・アンド・アース』（03年）

『鳳凰 わが愛』（07年）

7. 麻生久美子—『ハーフェズ ペルシャの詩』（08年）

8. 浅野忠信—『モンゴル』（08年）

第4 映画にみる面白い日本人論

1. 『タイタニック』（97年）

2006年5月4日付産経新聞「産経抄」

『ある豪華客船が航海中に沈没しつつあった。船長は救命ボートの定員に限りがあるから、女性と子供以外は船に残るよう求めた。米国人には「Q1」。英国人には「Q2」。イタリア人には「Q3」。そこで日本人に対しては「Q4」といったとか』さて、Q1～Q4の答えは・・・？

2. 『素晴らしきヒコーキ野郎』（65年）

①アメリカ、②イギリス、③イタリア、④ドイツ、⑤フランス、

⑥日本（石原裕次郎）

第6部 07年のベストテンとお正月の注目映画（1～2月公開）

—何を学ぶか？

第1 ベストテン（印象に残る5つ星）

1. 洋画

・『ブラックブック』（06年）

・『グッド・シェパード』（06年）

・『4分間のピアニスト』（06年）

・『エディット・ピアフ 愛の讃歌』（07年）

・『アフター・ウェディング』（06年）

・『ある愛の風景』（04年）

2. 中国・香港。台湾・韓国映画

・『百年恋歌』（05年）

・『孔雀 我が家の風景』（05年）

・『西瓜』（05年）

・『長江哀歌』（06年）

・『見知らぬ女からの手紙』（04年）

3. 韓国映画

・『百万長者の初恋』（06年）

・『絶対の愛』(06年)

4. 邦画

・『ゆれる』(06年)

・『キサラギ』(07年)

第2 年末・正月映画

1. ハリウッド映画

・『アメリカン・ギャングスター』(07年)

1. その他

・『やわらかい手』(06年)

・『ここに幸あり』(07年)

・『北京の恋—四郎探母』(04年)

・『マリア』(06年)

・『中国の植物学者の娘たち』(05年)

3. 邦画

・『北辰斜にさすところ』(07年)

・『歓喜の歌』(07年)

以上